



まんだらげ

Vol.42
2017 AUTUMN

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。



Contents

特集 / 脳卒中

TOPICS / リンパ浮腫外来
お手軽検査

教授就任挨拶 / 整形外科教授 山田 宏
皮膚科教授 神人 正寿

お知らせ / 寄付受入 移植コーディネーター
食事と健康Q&A

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

脳卒中

脳は生命をつかさどる重要な臓器です。脳にはたくさんの血管があり酸素や栄養を供給しています。

脳卒中とは、脳の血管が詰まる病気や脳の血管が切れて出血する病気の総称です。下記のように分類されます。

脳卒中は、がん、心臓病に次いで日本における死因の第3位で、三大成人病のひとつで、多くの場合何の前ぶれもなしに突然襲ってきます。下記のような症状がある場合、至急医療機関を受診してください。

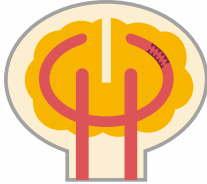
脳卒中とは

脳梗塞

脳血栓と脳梗塞の大きく二つに分けられます。

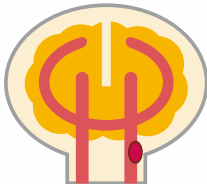
脳血栓

脳の血管が動脈硬化で細くなり詰まってしまうもの。前兆※があったり、徐々に増悪することが多い。



脳塞栓

心臓や首の血管にできた血の塊が脳に流れてきて脳の血管をふさぐもの。一般的に症状が突然に出る。



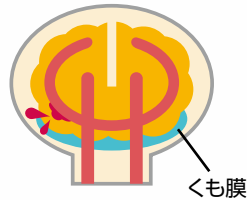
主な症状

- 手足の脱力
- 言葉がしゃべりにくい、理解できない
- ろれつが回らない
- 半身の感覚が鈍い
- 呼んでも目が開けられない
- 意識がなくて呼吸が不整で浅い など

※脳血栓の前兆を一過性脳虚血発作と言います。半身不随、ろれつがまわらないなどの症状が一時的に出て一日以内(殆どが10分以内)に消失する発作です。この発作のあと、何も治療せずに放置すると、高い確率で脳梗塞を起こすと考えられています。

くも膜下出血

脳の表面の血管にできたこぶ(動脈瘤)が裂けて脳の表面のくも膜下腔の中に出血するもの。

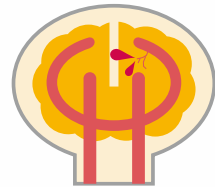


主な症状

- 「頭をバットで殴られたような」激しい頭痛。出血した瞬間(頭痛が始まる瞬間)には意識を失うことも多い。
- 重症になると麻痺、意識障害を伴う。
- さらに重症な場合は即死することもある。

脳内出血

脳内の細い血管が動脈硬化などで破れて脳の中に血の塊を作る病気で、突然に発症する。



主な症状

- 手足の脱力
- 言葉がしゃべりにくい、理解できない
- ろれつが回らない
- 半身の感覚が鈍い
- 呼んでも目が開けられない
- 意識がなくて呼吸が不整で浅い など

頸部頸動脈狭窄・頭蓋内動脈狭窄

首や脳の動脈が細くなる病気。脳の血行が悪くなり、脳梗塞、脳血栓の原因となる。

未破裂動脈瘤

脳の動脈にできたこぶがまだ破裂する前に見つかったもの。脳ドッグや頭痛・めまいの検査(MRI-MRA検査)などで見つかるが増えている。

その他の脳血管障害

硬膜動静脈奇形・脳脊髄動静脈奇形・もやもや病・脳静脈洞血栓症など

脳卒中の治療について

脳卒中の治療は症状を起こしている原因によって異なります。検査で原因を調べ、それに応じて内科的治療または外科的治療などの治療方針を決定します。ここでは代表的な治療について記載しています。

また、当院では急性期の治療と並行し、早期よりリハビリテーションに取り組んでいます。

内科的治療

●脳梗塞の治療

症状が出たら、早く医療機関を受診することが何より重要です。受診が早ければ(超急性期)詰まった血の塊(血栓)を溶かす薬(tPA。発症から4.5時間以内)や血栓を除去するカテーテル治療(発症から6時間以内)により症状の改善が期待できるからです。

tPAやカテーテル治療を使えないときは、動脈硬化が原因のアテローム血栓性脳梗塞の場合は血栓を予防する抗血小板薬を使います。心房細動が原因の心原性脳塞栓症の場合は抗凝固薬を使い心臓内での血栓を予防します。

発症から3～4週間で慢性期の治療に移ります。血栓予防薬を継続しつつ血圧管理、糖尿病、脂質代謝異常など動脈硬化の原因となる合併症の治療も併せて行います。

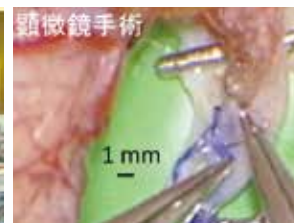


●脳梗塞の治療

・カテーテル治療…足や手の血管からカテーテルを入れ、血管が細くなっているところに風船を通し、その風船で細い部分を広げます。また、風船で広げた血管に金属の網目状の筒(ステント)を入れ、再び狭くなるのを予防します(図1)。

・バイパス手術…脳への血液の流れを増やすために脳の血管と頭の皮膚の血管をつなぐ手術(バイパス手術)をする場合もあります。細い血管をつなぐため顕微鏡を使って手術を行います。(図1)

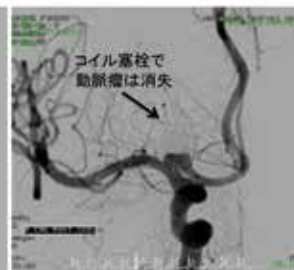
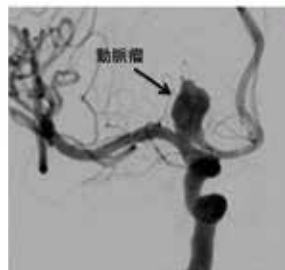
図1 顕微鏡手術



●くも膜下出血の治療

くも膜下出血の治療で最優先されることは原因となった動脈瘤(血管のコブ)の再破裂予防です。二つの方法があり、ひとつは手術治療(開頭ネッククリッピング術)、もう一つはカテーテルによる治療(血管内治療動脈瘤、コイル塞栓術)です。(図2)

図2 脳動脈瘤に対するコイル塞栓術(カテーテルによる治療)



治療前

治療後

●未破裂脳動脈瘤の治療

最近、脳ドックの普及によりMRI検査がよく行なわれるようになり、脳動脈瘤が破裂していない状態で見つかることが増えてきました。動脈瘤(血管のコブ)の大きさや形を調べ、破裂予防のために手術治療やカテーテルによる治療を行います。最近では、カテーテルによる治療が増えてきています。

外科的治療

リハビリテーション

脳血管障害は命が助かって、麻痺や高次脳機能障害などの後遺症が残ることがしばしばあります。最近の研究では、発症後出来るだけ早期に、座位、起立、歩行などのリハビリテーション治療をした方が6ヶ月後の麻痺の状態が改善している事が判っています。

当院では、急性期治療と平行し、リハビリテーション科医師が全身を診察し、熟練した理学・作業療法士がリハビリテーション治療に取り組んでいます。失語症や嚥下障害等へは精通した言語聴覚士が対応します。毎朝回診し、状態に応じた最良のリハビリテーション治療を行います。

退院後、自宅に帰ってから手足の突っ張りが悪化した場合などは、リハビリテーション科を受診して下さい。投薬、注射、装具療法、運動療法などの総合的治療で症状の改善に取り組みます。



リンパの流れが阻害されて起こるむくみでお困りの方へ リンパ浮腫外来、新設

リンパ浮腫とは、がんの術後や放射線治療後にリンパの流れが阻害されて起こるむくみのことです。手足が大きくむくむことにより日常生活に支障をきたすことも多く、一度発症すると完治は難しい病気ですが、正しいケアによりむくみを軽減し、それを維持することはできます。

当外来では、その方の状態に合わせてリンパ浮腫のケア(複合的治療)を行いながら、ご自身でケアを継続できるよう、正しいケア方法を習得していただけます。

※複合的治療とは、下記①～⑤を状態に合わせて行うことです。

1	用手的リンパドレナージ
2	圧迫療法 (圧迫材料の提案、「弾性着衣装着指示書」の発行)
3	スキンケア
4	日常生活指導
5	圧迫下での運動 (現在のところ指導のみを行っています。)

■ 対象者

がんの手術後に続発性リンパ浮腫を発症している方

対象となるがん

- 子宮がん
- 卵巣がん
- 前立腺がん
- 乳がん (腋窩リンパ節郭清を伴う)

※主に、上記の疾患の主治医からリンパ浮腫の診断を受け、紹介状をお持ちの方に限らせていただきます。

その際、手術の年月日を紹介状に明記いただけてください。

■ 対象ではない方

以下の疾患をお持ちの方

- 心不全
- 蜂窩織炎など急性の炎症
- 浮腫領域にある急性の血管塞栓
- 活動的な未治療のがん

■ 診療日時

毎週火曜日 14時～16時(完全予約制)

■ 診療費用

保険診療

■ 診療頻度

軽症の方：6か月に1回の複合的治療

重症の方：最初の2か月で最大11回、その後は月1回の複合的治療

※リンパ浮腫治療のみを目的とした入院治療は行っていません。

■ 担当者

呼吸器外来・乳腺外科医師

vodder式リンパ浮腫セラピスト 青石裕香

呼吸器外来・乳腺外科医師

vodder式リンパ浮腫セラピスト 西口春香

看護部 外来看護師

vodder式リンパ浮腫セラピスト 中本紗世

■ 診療場所

2階 呼吸器外科・乳腺外科外来



お手軽検査

「お手軽検査」を開始するきっかけは、地域住民向けの公開講座を開催したときの参加者アンケートから、病院にかからなくても簡単に検査ができ、健康状態をチェックできれば嬉しいという声があったためです。簡単な手続きで検査を受けてもらえないかと「お手軽検査」を開始しました。対象は、医療機関で診療中の方は検査出来ませんが、患者の付添いの方、お見舞いのために当院にいられた方、あるいは診察してもらう程ではないが病気が気になる方など(16歳以上)です。2008年4月より開始しており、現在までの延べ人数は1,016名、そのうちの約半数(49.6%)が定期的に検査を受けに来られているリピーターの方で、ひそかな人気となっています。

実施検査項目は、表1に示すとおりです。血管年齢(ABI/PWV検査)は公開講座において好評でしたので、「お手軽検査」開始後に追加項目として採用しました。この検査のみ予約が必要な検査になっています。健康意

中央検査部

識が高い方、是非お試しください。

表1 「お手軽検査」のセット名と項目

セット名	項目
貧血	CBC (WBC・RBC・Hb・Ht・PLT)
糖尿病	血糖・ヘモグロビンA1c
脂質・痛風	T-Chol・HDL-Chol・LDL-Chol・TG・UA
肝機能	AST・ALT・γ-GTP・ALP・CHE
腎機能	尿素窒素・クレアチニン
前立腺	PSA
B型肝炎	HBs抗原
C型肝炎	HCV抗体
梅毒	TPLA・RPR
血管年齢 (要予約)	ABI/PWV

図1 「お手軽検査」の流れ

- ①各自希望の検査チケットを購入 ※チケット券売機は正面玄関横(県民コーナー)に設置しています。
- ②中央検査部で申込用紙に必要事項を記入
- ③採血
- ④検査結果の返却 ※医師のコメントを付けて数日中に郵送します。また、匿名希望の検診者には、引換用紙と交換に結果をお渡します。



教授就任挨拶

運動器疾患に対する安心・安全な低侵襲手術の提供を目指します。

平成29年6月1日付で当講座の第6代教授を拝命いたしました。本学卒業後、一貫して和歌山県の地域医療に尽力して参りました。引き続きよろしく願い申し上げます。

現在、超高齢社会に突入した我が国の喫緊の課題は健康寿命延伸です。高齢者の方々が強く求める、安心・安全な低侵襲手術手技を広く研究・開発するとともに、卓越した低侵襲手術手技を有する職能集団の育成につとめ、世界を先導する低侵襲手術手技を実践することで、和歌山医大のさらなるブランド化を推し進めたいと切に願っています。そして、その成果を地域の皆様方に積極的に還元していきたいと考えています。



整形外科科学講座 教授
山田 宏

診療項目(対象疾患)

運動器疾患全般を診療対象としています。主なものは、脊柱変形、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、靭帯骨化症、末梢神経障害、変形性関節症、靭帯損傷、外傷、スポーツ障害、骨軟部腫瘍、小児先天性形・発達異常、骨粗鬆症、関節リウマチなどです。

専門外来など

脊椎脊髄疾患、関節、手外科、骨軟部腫瘍、小児外科、関節リウマチの専門診を設けています。また、診断がつかない患者さんについては新患外来も設けています。

経歴

- 昭和63年 和歌山県立医科大学医学部卒業
- 昭和63年 和歌山県立医科大学整形外科科学講座入局
- 平成4年 米国ミネソタ大学 整形外科科学講座研究員
- 平成7年 和歌山県立医科大学 整形外科科学講座助手
- 平成8年 国保橋本市民病院 整形外科副医長
- 平成10年 和歌山県立医科大学 整形外科科学講座助手
- 平成14年 新宮市立医療センター 整形外科部長
- 平成17年 和歌山労災病院 整形外科脊椎センター長
- 平成19年 和歌山県立医科大学 整形外科科学講座講師
- 平成25年 和歌山県立医科大学 整形外科科学講座准教授
- 平成29年 和歌山県立医科大学 整形外科科学講座教授

和歌山の皮膚科診療のさらなる発展を目指して

平成29年7月1日付で、和歌山県立医科大学皮膚科学講座教授を拝命いたしました。これまで皮膚科の中でも特に膠原病と血管系腫瘍の診療を専門としてまいりましたが、東京大学と熊本大学という異なる環境の中で、多彩な疾患への対応力と高い専門性の両方を磨くことができました。これまでの経験を生かして故郷の医療と医学に貢献すべく、微力を尽くす所存です。



皮膚科学講座 教授
神人 正寿

当教室は1945年皮膚泌尿器科学教室として誕生し、1964年に皮膚科と泌尿器科がそれぞれ独立して現在に至ります。初代故西村長應名誉教授、2代目三嶋豊教授、3代目故青木和夫教授、4代目松中成浩教授、そして5代目古川福実教授が築きあげた素晴らしい伝統を継承し、和歌山県唯一の大学皮膚科として、世界標準の診療、教育、そして研究を行い、関連病院やクリニックと

力を合わせて県民の皆様の皮膚を守ります。

診療項目(対象疾患)

皮膚科は、皮膚に加えて頭の先(髪の毛)から、足の先(爪)までの体の表面の眼に見える箇所の全ての異常を治療対象としています。具体的にはアトピー性皮膚炎・乾癬・膠原病などの炎症性疾患、あるいは皮膚がんや母斑など腫瘍性疾患などに分けられます。また当科では美容外来を、国公立大学初の自費診療外来として行なっているのを特徴としております。当科受診をご検討の際には、まずはお近くの皮膚科専門医におかかりいただき、紹介状を持参いただければ幸いです。

専門外来など

一般診療に加えて、乾癬外来、レーザー外来、美容皮膚科外来、脱毛症外来、メディカルメイクなどの専門外来を開設しています。

経歴

- 1999年 東京大学医学部医学科卒業
- 1999年 東京大学皮膚科 入局
- 2000年 東京通信病院皮膚科 研修医
- 2001年 東京大学大学院医学研究科博士課程入学
- 2005年 東京大学医学部附属病院皮膚科 助手
- 2006年 ハーバード大学発達生物学教室 リサーチアソシエイト
- 2008年 熊本大学生命科学研究部 皮膚病態治療再建学分野 講師
- 2014年 熊本大学生命科学研究部 皮膚病態治療再建学分野 准教授
- 2017年 和歌山県立医科大学 皮膚科 教授

院内臓器移植コーディネーター紹介



院内臓器移植コーディネーター（以下、院内コーディネーター）とは、臓器移植の普及啓発、円滑な臓器摘出体制の確保等の業務を行う者です。当院には県が指定する研修会を受講した23名の院内コーディネーターがいます。その職種は医師や看護師だけでなく、臨床検査技師や事務職員なども含みます。

平常時は臓器移植に関わる情報などを発信するニュースレターの配信や、マニュアルの作成、難しい条件下での臓器提供を想定したシミュレーションの開催、連絡調整会議などを行っています。また院内の臓器移植希望者やその家族の相談も受けています。

実際に臓器提供事例が発生した時には、臓器提供者の家族と病院や関係機関を繋ぐ窓口になります。近親者の臨終に直面する家族への身体的・精神的な

支援を行い、患者と家族の意向に沿った選択をできるよう一丸となって日々活動しています。



昨年度のシミュレーション時の画像

寄附金の受け入れ

このたび当院を受診されている患者さんから、「研究のため、医大病院のため、何かお役に立てていただければ。」と180万円の寄付をいただきました。

当院といたしましては患者さんの意向に沿った形で有効に使用させていただく予定です。本当にありがとうございました。



感謝状の贈呈式

食事と健康 Q&A ～脳卒中～

Q. 脳卒中を防ぐにはどんな食事が良いですか？

A. 脳卒中の原因の一つ、生活習慣病を予防する食事を心がけてください。

ポイント

塩分を控える＝高血圧の予防と改善

食塩をとりすぎると血圧上昇の要因となります。味付けは薄味とし、味噌汁や麺類のスープを半分程度残したり、漬物や干物の摂りすぎに注意しましょう。

食べすぎない＝肥満の予防と改善

腹八分目を目指しましょう。

油脂類の選択＝脂質異常症の予防と改善

『肉の脂』に多く含まれる飽和脂肪酸は、摂りすぎるとコレステロールの上昇や動脈硬化を促進します。『魚の脂』や『植物油』に含まれる不飽和脂肪酸は、コレステロールを下げる効果や、動脈硬化を予防する働きがあります。魚料理を積極的に取り入れましょう。

野菜の摂取＝コレステロールの吸収を抑える・便秘の改善

野菜類や海藻類等に多く含まれる『食物繊維』は、コレステロールの吸収を抑えたり、血圧を下げる働きがあります。また、便秘の予防や改善のためにも、野菜類等をしっかりと摂りましょう。



予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」**にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

患者支援
センター

FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月・火・水・金 9:00～19:00
木 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約
センター

電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

当院の取り組み

特定の曜日に院内のさまざまな場所で患者さんを長くお待たせしていることがありますが、その混雑を解消するため、今年度から診療スケジュールを見直し、診療時間のフレックスタイム制度を導入しています。
今後も待ち時間の短縮化など、患者さんの負担を軽減する取り組みを続けてまいります。



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診療をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。